

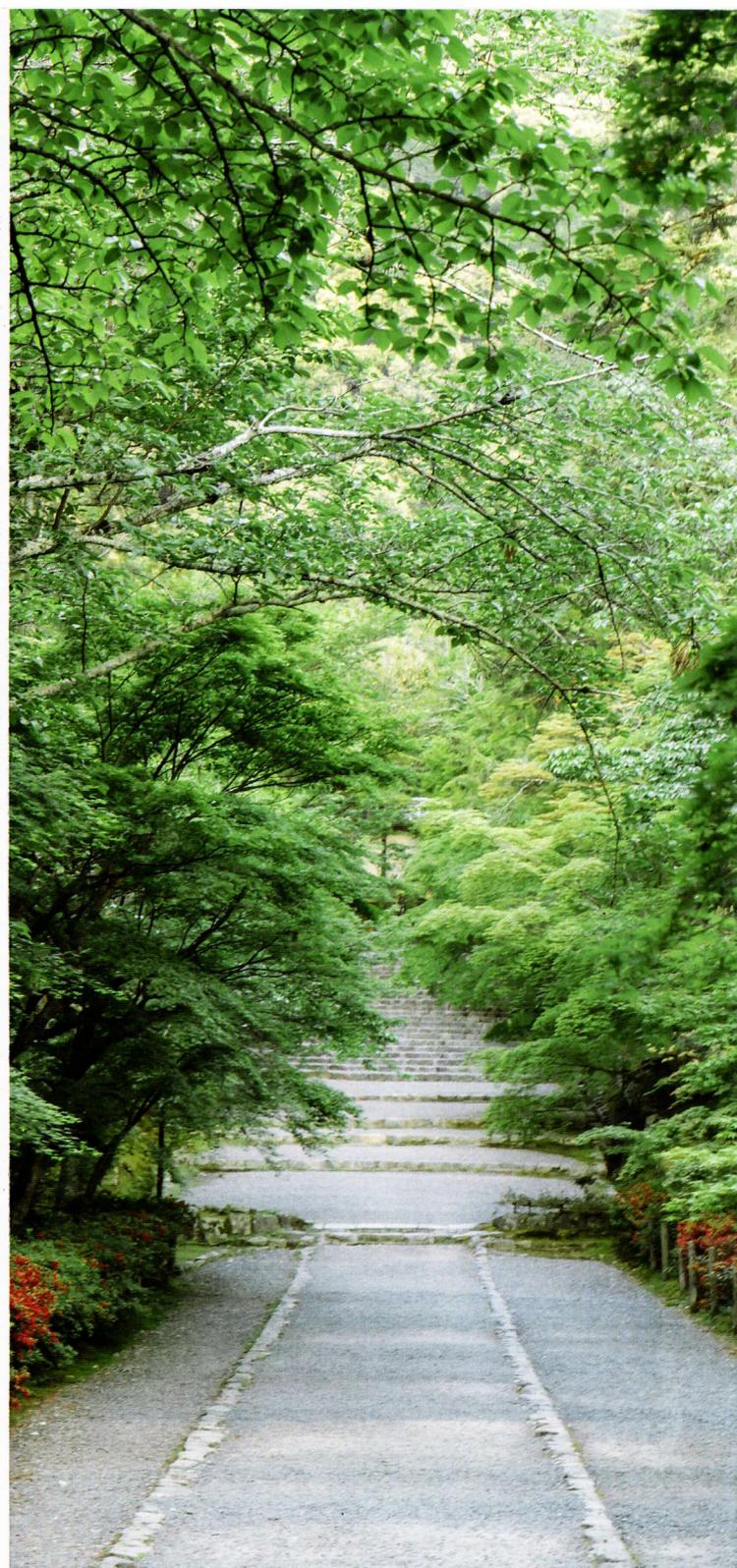
# 二尊院



耳を澄ませて、  
時を忘れる。

本当の静寂とは、無音ではありません。  
まっすぐに伸びた参道を通り抜けた先、  
紅葉や桜の木に包まれた美しい景色の中で、  
一度だけ耳を澄ませてください。  
日常生活では聞き逃してしまう音が聴こえてきます。  
木々はゆれ、鳥は鳴き、水は流れ、そして人がいる。  
二尊院の静寂はいくつもの音を呼び込み、  
私たちに届けてくれます。  
寺院の由緒に心を満たされるときも、  
麗らかなひとときをお過ごしください。  
自然が奏でる音色に心が和むとき、  
それは千二百年前から響いている音かもしれません。

お寺は決して難しい場所ではありません。  
小倉山のふもと二尊院で、千二百年の静寂と出会う。



# 二尊院について

About

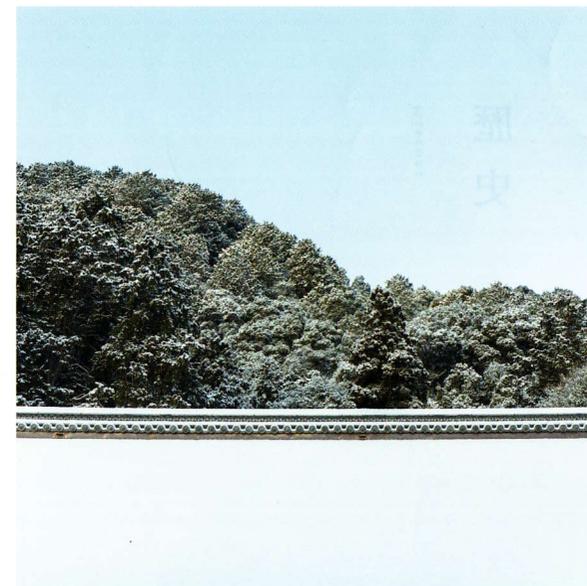
百人一首にも詠われた小倉山のふもとに広がる二尊院。紅葉の名所と名高く、千二百年の時を超えて美しい景観に包まれてきました。二尊院はその名の通り、「釈迦如来」と「阿弥陀如来」の二尊を祀る寺院であり、正式には「小倉山二尊教院華臺寺」といいます。開創したのは承和年間（八三四～八四七）のこと。嵯峨天皇の勅願により慈覚大師が建立しました。明治維新までは天台宗・真言宗・律宗・浄土宗の四宗兼学の道場でしたが、明治以降は天台宗に属しています。約五万坪の境内には、本堂、勅使門（唐門）、総門、八社宮、湛空廟、鐘楼が配されており、重要文化財の本尊二尊をはじめ、多くの寺宝が京都市指定文化財として残されています。二尊院と関わりのある天皇（嵯峨天皇、土御門天皇、後土御門天皇、後嵯峨天皇、龜山天皇）の御分骨を納めると伝わる三帝陵があり、また、法然上人ゆかりの寺として二十五ヵ霊場の第十七番札所となっています。小倉山の東麓に佇む二尊院で、心静かなひとときをお過ごしください。



左側：阿弥陀如来 右側：釈迦如来

二尊院の寺名は、  
本尊の「釈迦如来」と「阿弥陀如来」の  
二如来像に由来します。

寺名のもととなっている二尊は、極楽往生を目指す人を此岸から送る「發遣の釈迦」と、彼岸へと迎える「來迎の弥陀」の遣迎二尊です。この思想は、中国の唐の時代に善導大師が広めた「二河白道喻」というたとえによるもので、やがて日本に伝わり法然上人に受け継がれました。当院の遣迎二尊像は鎌倉時代中頃に、春日仏師によって作られたと言われております。本堂の中央に安置されており、右に釈迦如来像、左に阿弥陀如来像が立ちます。左右相称で金泥塗り、玉眼入りの像が境内を見守るように並んでいます。



616-8425

京都府京都市右京区嵯峨二尊院門前長神町27

Tel / 075-861-0687

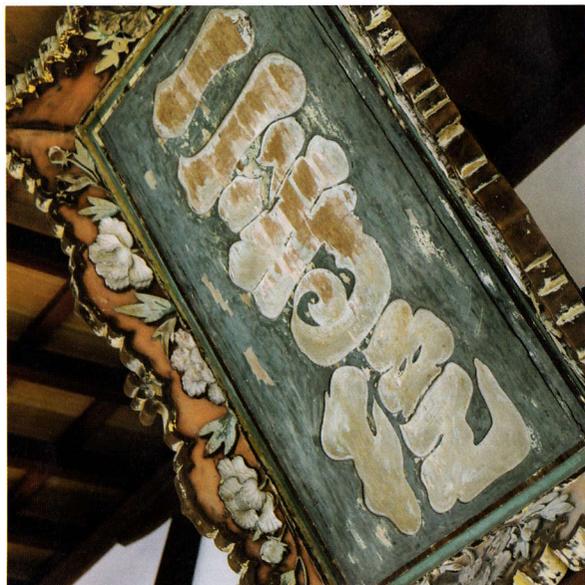
Fax / 075-861-7972

☎ @nisonin

nisonin.jp

# 歴史

History



後奈良天皇勅額



二尊院の歴史は、嵯峨天皇の勅願により第三代天台座主(円仁)が承和年間(八三四~八四八)に建立したことに始まります。鎌倉時代の初期には、法然上人(一一三三~一二二二)が二尊院に住んで法を説かれ、関白九条兼実公(一一四九~一二〇七)を筆頭に多くの信望を集めて栄華を迎えました。第三世の湛空上人は、土御門天皇(在位一一九八~一二一〇)と後嵯峨天皇(在位一二四二~四六)の戒師(仏門に入るときに戒を授ける師僧)となり、また第四世の叡空上人も後深草天皇(在位一二四九~五九)、龜山天皇(在位一二五九~七四)、後宇多天皇(在位一二七四~八九)、伏見天皇(在位一二八八~九八)の四帝の戒師となり、二尊院はますます栄えました。応仁の乱(一四六七~七七)の兵火で諸堂は全て焼けましたが、永和十八年(一五二一)に第十六世恵教上人(後奈良天皇の戒師)のときに、三条西実隆公が諸国に寄付を求めて本堂・唐門を再建しました。奈良の仏師によってつくられた本尊二尊は重要文化財に指定されており、現存する本堂、総門、八社宮、湛空上人廟は京都市指定文化財になっています。平成二十八年(二〇一六)には、平成の大改修として本堂が再建され、新たな歴史を刻んでいます。

# 文化財

Cultural Properties



総門

重要文化財

木造釈迦如来立像 / 阿弥陀如来像 / 絹本着色浄土五祖像 / 絹本着色釈迦三尊像 三幅 / 絹本着色十王像 十幅 / 絹本着色法然上人像 / 絹本着色三条西実隆像 / 絹本着色三条西公条像 / 法然上人七ヶ条御制戒 附蒔絵箱 / 法門名義卷第一



法然上人七箇条制法



絹本着色法然上人像

重要美術品

絹本着色二十五菩薩來迎図 十七幅

京都市指定文化財

本堂 / 総門 / 八社宮 / 湛空上人廟



本堂



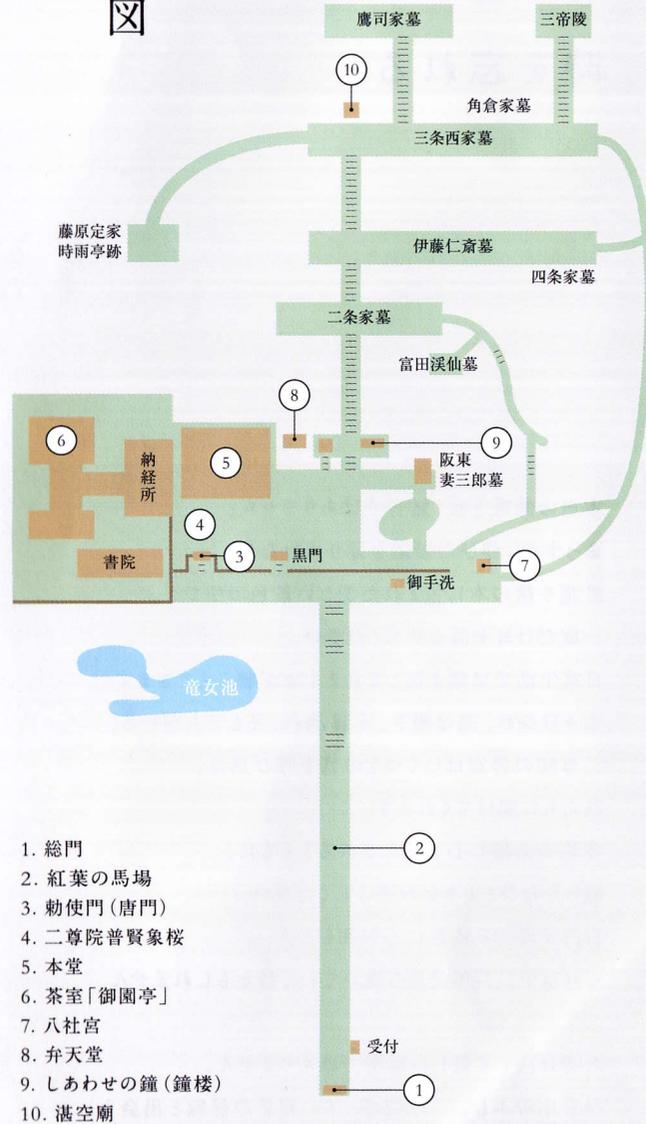
八社宮



湛空上人廟

境内図

Map



1. 総門
2. 紅葉の馬場
3. 勅使門(唐門)
4. 二尊院普賢象桜
5. 本堂
6. 茶室「御園亭」
7. 八社宮
8. 弁天堂
9. しあわせの鐘(鐘楼)
10. 湛空廟

② 紅葉の馬場

総門を抜けた先に広がる、真っすぐに伸びた参道は「紅葉の名所」として親しまれています。約百メートルの間にモミジとサクラの木が交互に植えられて、秋は赤や黄の色鮮やかな紅葉のトンネルを魅せてくれます。



③ 勅使門(唐門)

本堂へと続く門は、天皇の意志を伝えるために派遣される使いの「勅使」が出入りする際に使われていた勅使門。弓を横にしたような形で中央が高い「唐破風形」の屋根をしています。

④ 二尊院普賢象桜

しだれ桜が終わる四月半ば過ぎから咲き始める「普賢象桜」も魅力の一つです。八重咲きの桜ですが、花の中央から二つの変り葉が出て、これが普賢菩薩の乗っている白象の牙を思わせることから「普賢象桜」と呼ばれます。



⑤ 本堂

二尊を安置してある本堂。六間取り方丈形式の間口の広い建物は京都市指定文化財。室町時代の応仁の乱(一四六七~七七)の兵火で諸堂が全焼しますが、永正十八年(一五二一)に三条西実隆が諸国に寄付を求めて再建。

⑧ 弁天堂

弁財天の化身である九頭龍大神・宇賀神を祀るお堂。弁財天を祀る由来は、当院の「二尊院縁起」に見られます。他に大日如来、不動明王、毘沙門天等を安置しております。



⑨ しあわせの鐘(鐘楼)

梵鐘(釣り鐘)をつるす堂「鐘楼」は、慶長年間(一五九六~一六一五)に建立。梵鐘は慶長九年(一六〇四)に铸造し、平成四年(一九九二)に、開基嵯峨天皇千二百年御遠忌法要記念として再鑄。